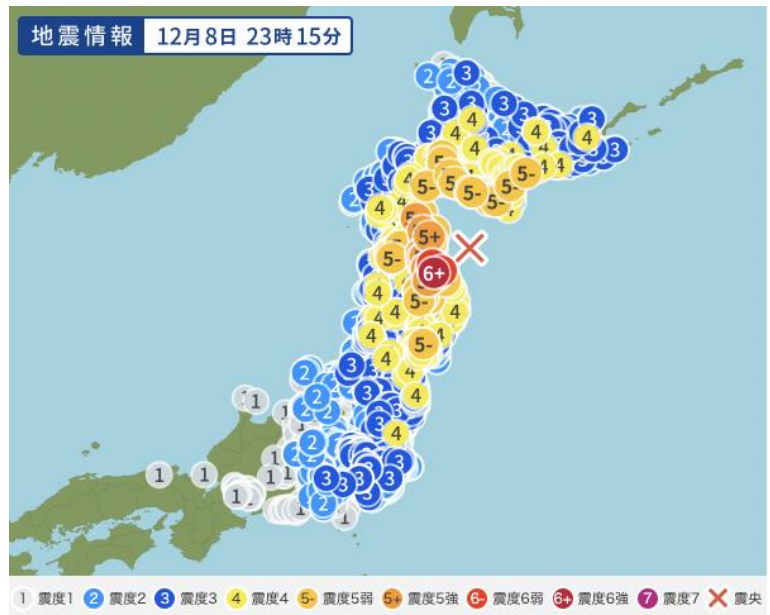




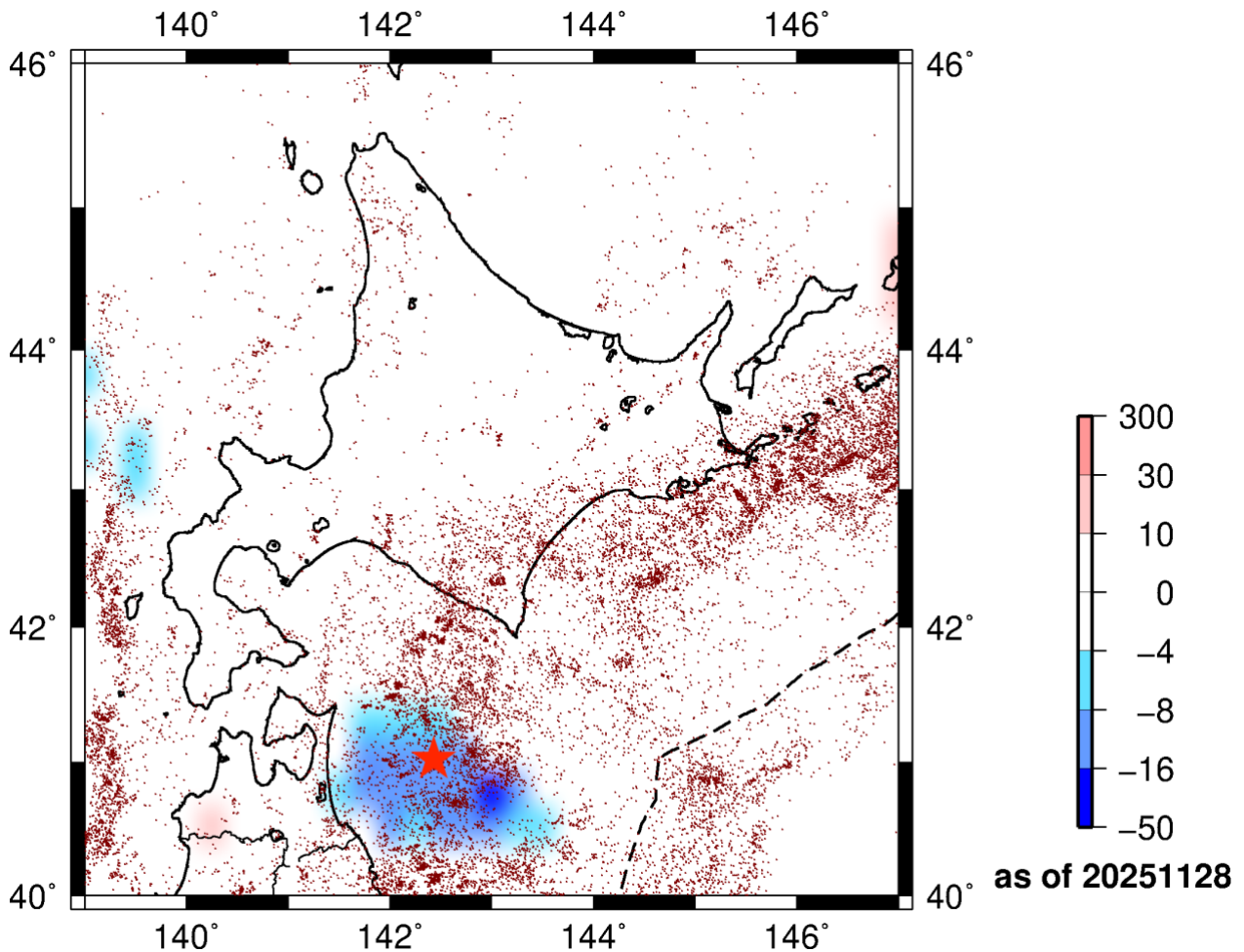
青森沖でマグニチュード7.5、震度6強の地震発生

12月8日23時15分ごろ、青森沖を震源とするマグニチュード7.5(気象庁が地震発生翌日に公表する暫定値、今後気象庁が確定値というものを1年後位に公表するまで、この値が最新の値となります)の地震が発生し、一部で震度6強を観測しました。

DuMA では当該地域周辺に数ヶ月前から地震活動静穏化現象が出現している事を12月1日、11月10日、10月27日等のニュースレターでも報告させて頂いておりました。



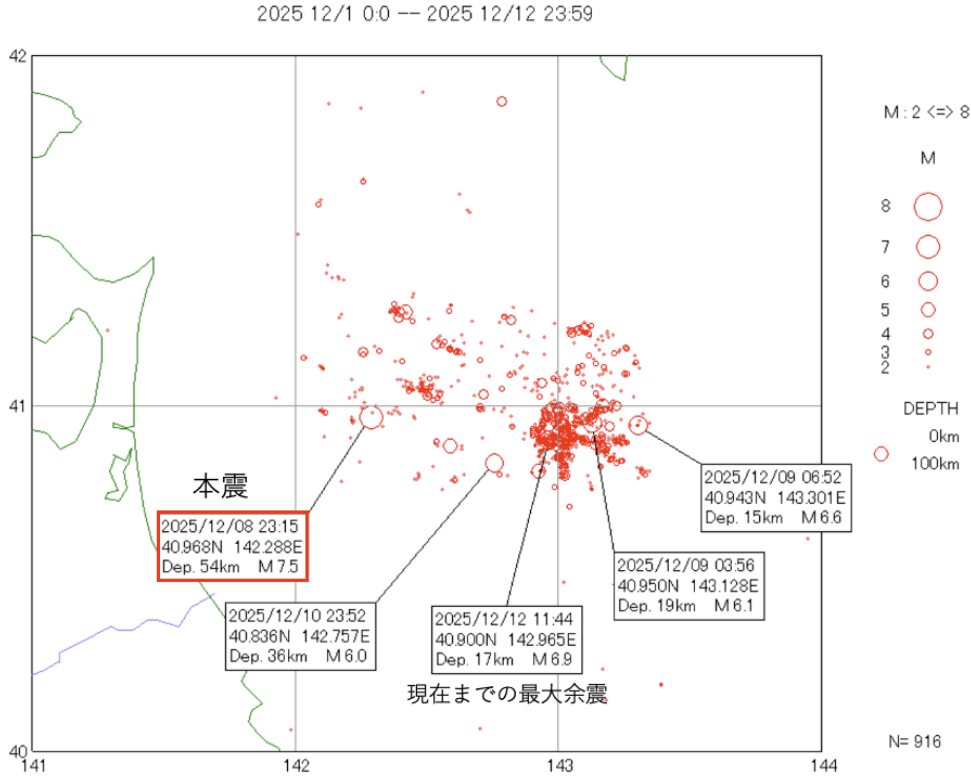
以下の地下天気図は12月1日のニュースレターに掲載したものに12月8日の地震の震央を書き加えたものです。



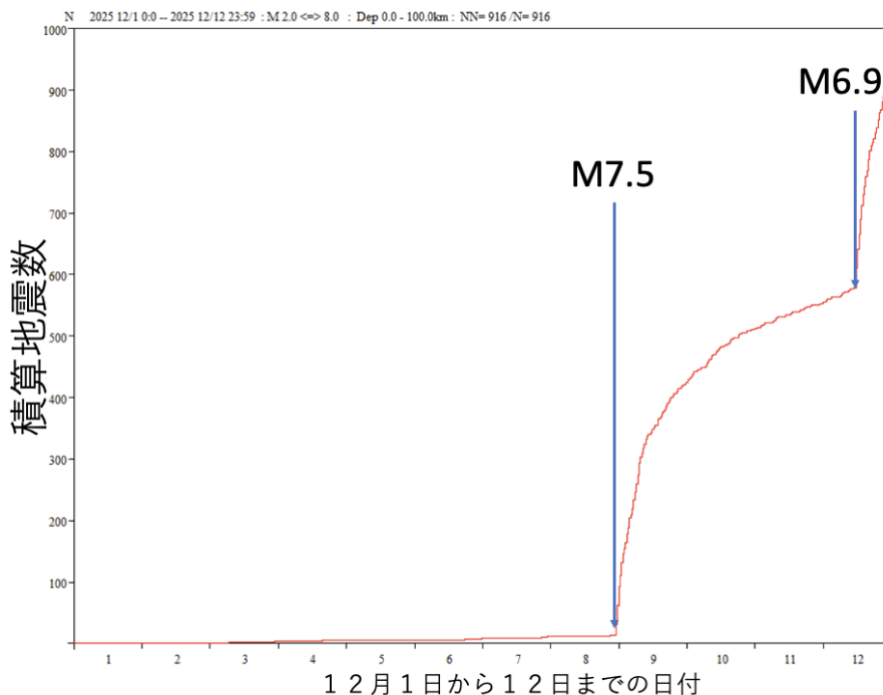


青森沖の地震活動の推移

次の図は12月1日から12日までのマグニチュード2を超える地震をすべて図示したものです。この期間に916個の地震を気象庁は観測しています。そのうち30個ほどが有感地震となっています。これは陸地から離れているために、かなりの地震が「無感地震」として気象庁の震度データベースには含まれないためです。



8日の地震発生のおと、12日にはマグニチュード6.9の地震が発生し、一時津波注意報が発令されました。次の図は12月1日から12日までの上記916個の地震の積算発生グラフです。積算グラフなので、かならず右側に行くほど、大きな値となります。12日の M6.9 のあと、再び地震活動が活発になった事がおわかりになるのではないのでしょうか。

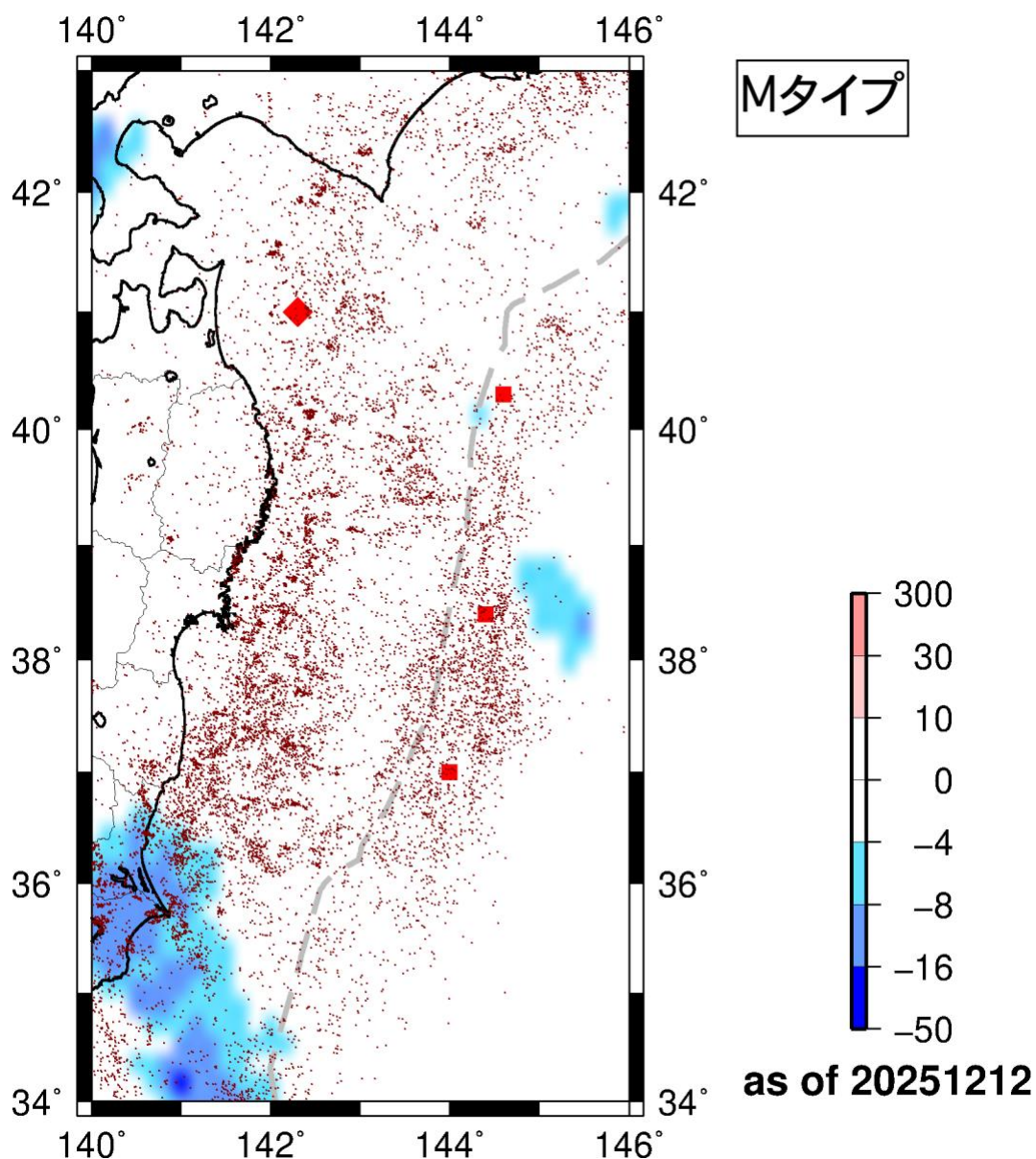




東北地方海域の地下天気図®

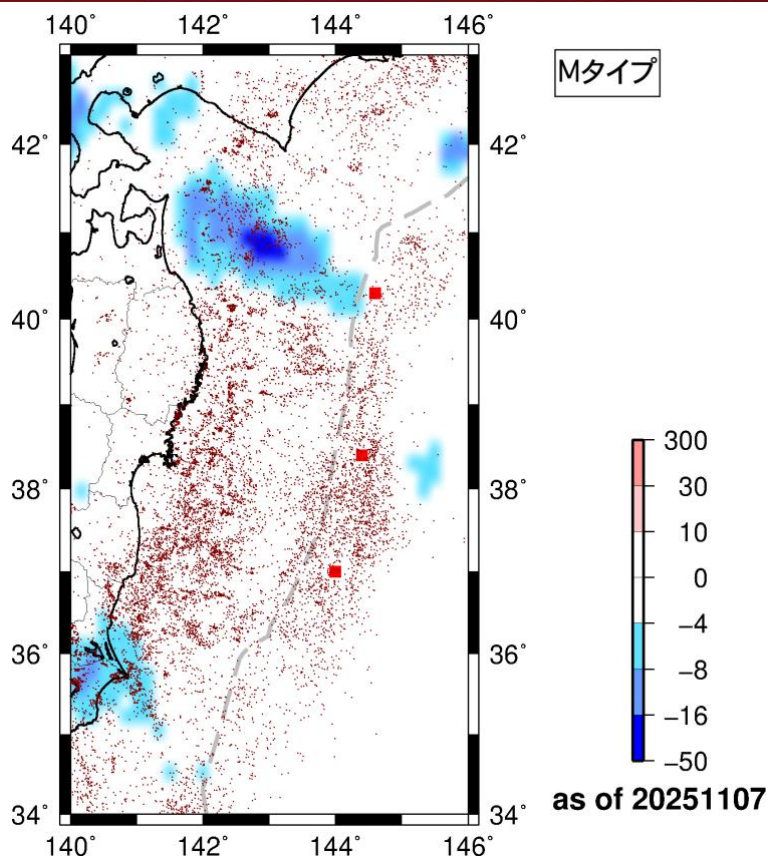
今週は12月12日時点の東北地方海域の M タイプ地下天気図をお示しします。青森県沖・北海道南東沖の日本海溝の地震活動静穏化(図で青い部分)が消えている事がわかりました。

図中の◆が12月12日に発生した地震の震央です。



気になる変化として、関東地方の地震活動静穏化領域(青い領域)が目立つようになった事です。房総沖を含む地域で M7 クラス地震発生の可能性が高くなっているというのが一つの解釈です。

次のページに参考となる前回の解析(11月10日のニュースレター)で紹介した11月7日時点の M タイプ地下天気図を再掲します。



最後に前のページの図の◆地点(12月12日の地震の震央)における地下天気図時間変化曲線がどのような経過をたどっていたのかをお示しします。

12月8日の地震発生により、静穏化が急激に解消した事が確認できます。

